

訃報

ドミニコ田川清美 神父 (福岡教区司祭)

2021年10月17日(日)、誤嚥性肺炎のため、九州中央病院にて帰天。享年95。司祭生活67年。



【略歴】

1926年9月12日 長崎県北松浦郡田平町に生まれる
1954年3月 司祭叙階
1954年4月～今村・久留米・大楠・呼子教会にて助任
1963年5月～馬渡島・呼子教会にて主任
2009年4月～司祭の家にて過ごす
通夜・葬儀はコロナ対応のため司祭団のみで執り行われた。

【2面に葬儀の様子を掲載】



2021年～2023年 シノドスの旅 開幕ミサ

福岡教区は、10月17日(日)、カテドラル大名町教会にて、開幕式典、開幕ミサを行い、その歩みに加わった(当日の様子は教区公式YouTubeで現在も視聴可)。

『今まで』とは違う教会『に向かって』



第16回シノドスのロゴ

教皇フランシスコは、10月10日(日)、バチカンの聖ペトロ大聖堂で、「世界代表司教会会議(シノドス)・第16回通常総会」の開会ミサを捧げた。これによって、全世界から、2023年10月にローマで行われる司教会議へと向かう、今回のシノドスの大きな歩みがスタートした。

道者・信徒の代表が、全世界の教会共同体と心を合わせて祈念した。

今回のシノドスのテーマに對し、大事なステップとして教皇は「出会うこと」「聴くこと」「識別すること」を掲げている。アベイヤ司教は「これはイエスの生き方そのもの。歌にある『キリストのよう』に考え、話し、行い、愛そう(典礼聖歌390)。キリストの弟子は人の前にひざまずき、その足を洗う者。共に歩む共同体である」と語った。

コロナ感染防止のため、開幕式典・ミサへの入場は限られたが、参加者からは以下の感想が寄せられた。「司教のポイントを押さえた分かなりやすい話を聴き、今回のテーマを意識し、確認することができた。シノドス成功のため、教皇の意向に合わせて継続して祈りたいと思う」(イエスのカリタス修道女会・山崎)。「どれひとつをとっても私にとっては容易なことではないが、2年間の歩みの中で、福岡教区の宣教司牧方針も併せて考え、少しでも信仰のセンスを磨きたいと思う」(福岡地区・川原義広)。「イエスの時代に使徒と群衆が密であったように、信徒・司祭・修道士・司教たちが同じ土俵に立ち、上からの押し付けではなく、下からの押し付け」によって出合い・傾聴・識別のステップを歩む。シノドスに招かれた私たちは、教皇が警鐘する形式主義という誘惑を断ち切り、建物の外観だけを素晴らしく思うのでなく、中に入って共に考え、歩むことを神様が望まれていると感じた(熊本地区・小野豊和)。



ヨゼフアベイヤ司教認可
発行所 福岡教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 下町豊重
編集人 下町豊重
カトリック福岡教区
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡教区
定価 一部70円

11月の意向
【世界共通】うつ病に苦しむ人々
【日本の教会】すべての死者のため

少し涼しく感じられるカテドラル大名町教会で、久しぶりの教区内全司祭の集まりがあった。マスク着用、社会的距離を取っての聖堂で、各地から訪れた司祭たちの集いに臨む熱い姿が印象的であった。10月12日(火)、会場の聖堂に約50人の司祭が座した。教会の昼の祈りを全員で唱えた後、アベイヤ司教の挨拶があった。司祭は、「2年ぶりの集まりに感謝したい。今日は日頃の宣教・司牧における喜び、苦しみ、困難、希望などを分かち合い、共感共有し、一致した歩みにつなげていけたら幸いである」と語った。



ソーシャルディスタンスでもこころはひとつ

2年ぶりの教区内全司祭の集い

のグループに分かれて行われ、各司祭は①最近の喜びの体験②今、自分が抱いている希望③今、自分が抱いている希望④今、自分が抱いている希望... (text continues with details of the meeting)

時の話題

愛し合う人々
ベトナムの殉教者
11月24日は、ベトナム人の聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者の記念日です。ベトナムへの福音の種は、日本と同じく16世紀頃にヨーロッパの宣教師により持ち込まれました。カトリックという宗教がまだよく分からなかった人たちは、当時の信者共同体の生活を見て「愛し合う人々」と呼びました。一方、王族や政府、儒学者達は、政治的な思惑や新しい教理への不理解などによりキリスト教信者への憎しみを持ち、キリスト者を迫害しました。1644年に殉教したカテキスタであるアンデレ・フイエエン氏(2000年に列聖)の時代から、1745、1862年の間に迫害された117殉教者(1988年に列聖)の時代までに、53個の禁令が出され、記録されていない約13万人の殉教者が出ました。殉教とは、血の赤さを想像しますが、残酷な迫害の血ではなく、神に対する忠実な愛と拷問者に対する赦しの愛のゆえのいのちの血でしょう。今の社会では、殉教で流される血はあまりありませんが、神の国とその義を誠生きるなら、いのちの血はいつも流れているでしょう。それは、日々の責任を全て果たすということ。そして、現代社会の様々な誘惑をわきまえ乗り越えること。すべてのいのちを守る。自己中心性を捨て、隣人を愛し、清く、まっすぐに神の子として生きるということ。教父テルトゥリアヌスは「殉教者の血はキリスト教信仰の種です」と述べています。私たちの信仰が、殉教した祖先の血によって育まれたことを意識しながら、自身の生活の中で、その信仰を尊び、いのちの血が流れるほど神の国とその義を何よりも優先していきますように。
ピーター・トアイ神父(聖ドミニコ会・箱崎教会)

有名な女流ドラマ作家が92歳でこの世を去った。報道は盛んに彼女の遺作を褒めた。たえた。「おしん」や「渡る世間は鬼ばかり」は記憶に残っている。一貫として彼女の心にあったのは、「殺したり、殺し合ったりするのを描かないこと」だった。彼女の波乱万丈の生涯で、「人を傷つけたら、殺したりすること」は人の生き方を変えてしまうこと、いけないこと。人は試練の中で生き抜くことが大事なこと」を信念としてきたのである。彼女の目や心はいつも一人ひとりの生き方に向けられていた。その一挙手一投足に興味を持ち、自分なりの想像も合わせてドラマ化していたのである。観る方は自分の状況と相まっているのを感じ、生きる希望と力を得たりしたという。過去を振り返って、貧しさや豊かさがあり、喜びや悲しみがあった。苦しみや楽しみもあった。よく生きてきたものだと思う。生活の根底には神と聖母マリアの存在があった。感謝と賛美、そして沢山のゆるしや願いをした。神や聖母マリアはすべての人の生きざまを知っておられ、関わってくださっている。幾多のドラマを眺めた。一人ひとりのことが神のノートに記されているのだ。「主よ、あなたは私を究め、私を知っておられる。座るのも立つのも知り、遠くから私の計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け、私の道にごとく通じておられる」(詩編139より)。神のノートを見せていただく時、「愛に富んだよい生き方をしてきたね」と褒められ、永遠の喜びに浸りたい。(S)

アベイヤ司教 教区内司牧訪問

4度目の緊急事態宣言もようやく解除となり、アベイヤ司教の司牧訪問の延期を何度も余儀なくされ続けた小教区のうち、今回福岡地区2教会から喜びの報告が届けられた。



国際色豊かな箱崎教会の集合写真

箱崎教会

10月10日(日)、ヨセフ・アベイヤ司教が、箱崎教会を訪問した。ミサは10時に始まった。普段の日曜日よりも多くの信徒が参列した。司教の説教はよごみなく、福音書の読み方について詳しく話をされた。また聖体拝領の際は、幼い子どもにも、祝福を与えてもらった。

ミサが終わり、しばらく休憩時間を挟んでから分ち合いが始まった。アベイヤ司教は、司教として福岡教区に派遣された時、そして着座式のため公開ミサが中止になったり、各教会の訪問も延び延びになったので、「自分はコロナ司教です」と自己紹介をして会場を沸かせた。また現在カトリック福岡教区で行われている「宣教司牧方針」のアンケートについて、協力して欲しいと願った。「宣教司牧方針」について、決定されたことに信徒が従うのではなく、信徒一人ひとりが真剣に考えて、教会の将来について考えてアンケートに協力して欲しいと述べた。併せて青年が集まるセンターを作りたいとも語った。最後に信徒の希望を入れて、写真撮影に応じてもらった。「来年も訪問します」と言われ、信徒は今から心待ちにしている。

笹丘教会

(報告) 樋口直子

急な肌寒さを感じ始めた10月16日、アベイヤ司教が訪問した。コロナ禍の為に延期となり、ようやく実現した。笹丘小教会は、今年で創立60周年を迎えている。マイクを通してのアベイヤ司教の声は明るく力強く、日本人かと思えるほどの流暢な日本語だった。ミサの説教では、信徒により近い位置に立ち、一人ひとりに語りかけるように話をした。主の祈りの

前には、「今、全世界で信者はこのように集まって皆でお祈りしています。その世界の人々を想いながら祈りましょう」と自身の言葉で導き、心からそう願っているという力強いものを感じた。ミサ後に30分ほど、司教の自己紹介や、私たちへのメッセージをもらった。子どもたちにも分かりやすいように、時々、冗談を交えて会場を沸かせた。よく「あなたはどのようにして日本に来たのですか?」と聞かれるが、答えはただ一つ、「行きなさいと言われたから」。簡単な言葉だが、信仰の真髄を感じた。また、信者に望むのは「この信仰を持つてよかった」と思えることだ。この言葉にも胸を打たれた。「宣教司牧方針は、上が決めて皆が従っていくものではない、皆で考えてそれに参加するべきです。是非一緒に考えて、支え合いながら、福岡教区100周年を一つの目標として共に歩んで行きましょう」と結んだ。終始その話しぶりに圧倒され、霊的な力が湧き出ているのを感じた。また、私たちのもう一つの喜びは幸真新助祭(大分教区)のミサ参加だった。大学時代の4年間を笹丘教会で過ごしたが、その後の成長ぶりにも驚き、この上ない喜びであった。



司教(二列目中央)の胸に輝くものは教会学校の子どもたちからのプレゼント前から二列目右端が幸真新助祭

60周年記念集会

10月4日(月)、福岡朝禱

(報告) 西山淳子

会60周年の集いが開かれた。朝禱会は、エキキュメニカルなグループで、毎週、祈るために集い、みことばに養われる場を提供している。その日の説教の担当者は、カトリック福岡教区の司教で、マルコ福音書16章で説教をし、福音宣教へ取り組むように励ました。カトリック信徒の参加者は少ないが、同じキリスト者である様々な教会の方々と交流は信仰を深めていくための励ましとなる。より多くの方々の参加を期待している。



様々なキリスト教宗派の方々と集う

聖書週間(11月の第3日曜日～第4日曜日)

聖書週間は、全国的に聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するための運動として1977年に始まりました。神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心をもち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

今年のテーマは、12月8日で終わる「ヨセフ年」と、3月19日に始まった『愛のよろこび』家庭年に合わせて「家庭一試練や苦境における喜びの源」とし、聖書のことばは「わたしはエフライムに歩くことを教え、身をかがめて食べさせた」(ホセア11:3-4参照)。



命の泉に、生きる力と勇気を汲みましよう

ルイ・ベリオン神父 パリ外国宣教会

今年も私たちは「聖書週間」(11月21日～28日)を迎え、教会からもう一度「聖書」を大切にすることを呼び掛けられています。言うまでもありませんが、それは「聖書」が埃を被る程本棚に保管することを意味しているのではありません。

ところで、そもそもどうして聖書を大切にしなければならないのでしょうか。ラテン語で聖書を翻訳し、注解した聖ヒエロニモ(340年～420年、祝日9月30日)は次のように答えます。「聖書についての無知は、キリストについての無知である」と(『イザヤ書注解』)。別の言い方をすれば、神がどれ程私たちの愛に渴いておられるか(ヨハネ19:25)を知るため、私たちの神への愛の渇きが「生きた水」によって潤されるため、「命の泉」(ヨハネ4:10～14)である神のことばを日々読み、味わうことを欠かすことが出来ないからです。そのことなしにはイエスの弟子になることも、イエスの弟子として生きることも不可能なことです。まず聖書を読むようにしましょう。

ところが「聖書」は正に「天声人語」、「人の言葉を通して語る神の声」です。私たちはほとんどが日本語で聖書を読んでいるのですが、聖書はほぼヘブライ語とギリシャ語で書かれています。歴史、時代、社会、文化、気候などが民族の言語に大きな影響を及ぼしているため、違った環境の中で生まれた言語に翻訳されると、言葉の響きやニュアンスが変わります。言葉は「シンボル」として使われた場合、尚更のことです。だから聖書を読むと共に、正確に正しく理解し、深く味わうために学ぶ必要もあります。その目的は(例外もありません)学者になることではありません。「学ぶ」ことになると、もちろん個人的な努力が求められるのですが私たちは「神の民」、イエスのうちに姉妹、兄弟とされ、福音を宣べ伝え証する同じ使命を帯びている以上、聖書について共に分かち合う習慣を身に付けるように心掛けなければなりません。それは日々の生活の中で共にイエス・キリストの弟子として生きるためです。更に、聖書の朗読と黙想は、祈る心を養い、導きと支え、力を汲み井戸となり、勇気を与えてくれることを見逃してはなりません。

このように励もうとすれば、現在の世界、社会、教会、自分の中でも働いておられる聖霊の存在と働きに気付かされ、聖霊の働きに協力する意志が確かなものとされます。コロナ禍の中で度々途絶えた感謝の祭儀、「不要不急の行事」のように扱われた感謝の祭儀、その「事件」(「時のしるし」?)を心に刻みながら、私たちの信仰の源である神の言葉に目を光らすことの大切さを再認識してはと思います。

聖書勉強会に参加して

\*ベリオン神父の聖書講座は、毎月2回ずつ、木曜の午後と土曜の午前に行われています。

嗚呼、今日も満たされた! 1人で5分もあれば読み終える次の日曜日の福音ですが、ここでは至福の時間が流れます。旧約の歴史的な背景や原文の微妙な言い回しなど教示していただきながら、より深く味わうことが出来るからです。キリスト者として生きる喜びと使命をこの集いで鼓舞され、一人ひとりが糧を得て家路につきます。この様な分かち合いの場が各地で催されるのを心から願う次第です。黒崎教会 津崎俊一

パリ外国宣教会・北九州支部で月2回開かれる木曜日の聖書講座で、主に日曜日の福音箇所に分ち合いを行い、教多の恵みを頂いています。聖書の集いに感謝しています。分かち合いを続ける度に、同じ福音箇所でも新たな発見や、呼び掛けを頂き、生活の中で病気が弱立場の人と繋がり、神の働きを探る。社会で苦しむ人々の解放を日々祈る機会を得ています。天神町教会 下田 猛

◆ ◆ ◆ 聖書週間から聖書習慣へ ◆ ◆ ◆ 教区養成教化委員会では毎月第2、4水曜日に「平日にもみことばの配達～普段着のあなたへ～」と題し、聖書(みことば)を黙想するための動画を配信しています。個人で、グループでご活用ください。みことばが私たちの日常を養う糧となりますように。過去に配信された動画も視聴できます。



平日にもみことばの配達

～普段着のあなたへ～

司祭職を全うしたドミニコ田川清美神父



「司祭のこころは救い主のこころ。こころひたすらにめぐる羊求む」

10月19日(火)、カテドラル大名町教会にてドミニコ田川清美神父の葬儀ミサと告別式がしめやかに執り行われた。主司式は福岡教区・教区長ヨゼフ・アベイヤ司教。参列者は制限され、司祭団のみとなった。説教には牧山勝美神父が立ち、「田川神父は主イエスの呼びかけに応え、67年間の司祭職を全うした。喜びも苦しみも味わいながらイエスと共に歩んできた奉仕の道は尊く価値あるものだ。天国で神から報いをいただいている彼ら地上の私たちのために恵みを取り次いでいただくように願いたい」と語った。告別式では田川神父の略歴が紹介され、赴任した教会からの弔電が披露された。挨拶に立ったアベイヤ司教は、「田川神父との関わりや導きに感謝し、永遠の喜びのために祈っている」と述べた。最後は「司祭のこころ(精神)」が歌われ、田川清美神父を見送った。遺骨は11月の和田墓地ミサまで司教館に安置される。

計報

福中 千穂 修道女

テレシア・フランシスカ(マリアの宣教者フランシスコ)修道会 2021年10月2日帰天。享年106。修道生活79年で

カトリック古賀教会 納骨堂のご案内

カトリック古賀教会内に3年前に建設された、比較的新しい納骨堂です。年に1度、主任司祭による慰霊祭も執り行われております。取得費用は、下記の通りとなります。1区画 ¥300,000(別途、管理料等がかかります)



詳しい資料、見学等のお問い合わせは、下記までお願いいたします。カトリック古賀教会 住所: 福岡県古賀市花見東2丁目23-1 電話: 092-942-2171

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は



業院・油山・野芥・小田部・今宿馬出・南福岡・大野城・飯塚 市民葬儀・法事相談センター 六本松店・赤坂店 福岡モリドブ 0120-45-1616

草苑 (SOUEEN)

カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。木下株式会社 TEL 092-526-5656 〒810-0016 福岡市中央区平和3丁目1-5

### コロナ禍の向こうに、出会いと再会を信じ

### 第2回 miniFYCC オンライン開催

9月26日(日)、福岡教区青年・中高生の企画、オンライン版「miniFYCC」(詳しくは教区報2021年10月号参照)を無事に開催することができました。パソコンの画面越しでの集まりとなった上に、約半日と短い時間であったにもかかわらず、大名町教会、光丘教会、大楠教会、笹丘教会、遠方は熊本の手取教会から多くの中高生・青年が集まってくれました。

企画は二部構成で、前半は「絵しりとり」など、画面越しに皆で協力して行うレクリエーションを楽しみ、後半は、特別ゲストのアイヤ司教様から講話をいただき、皆でそれぞれの「大切な出逢い」について分かち合いをしました。分かち合いでは、うまく

人生の多感な時を過ごす中学・高校時代。学業と信仰教育の結びつきについて、その様子や課題などを現場から月替わりでご寄稿いただく「ミッションスクールの今」。第5回目は福岡県福岡市にある福岡海星女子学院(幼・小・高)に話を伺った。

## 福岡海星女子学院

(福岡県福岡市)

～小さなマリアが育つ学校～

「虫とりにいくよ!」「こっちに来て〜」「栗があるよ!」「ああ!すべりそう。むりだよ〜むり」「だいじょうぶ、だいじょうぶ」休み時間ともなれば、ガイアの森の中からお子たちの声が聞こえてきます。ここは「森のある学校」です。自然いっぱいキャンパスで、カトリックの教えに出会い子どもたちはのびのびと成長していきます。

私たち海星は、最も弱い立場の人を大切にマリアの宣教師フランシスコ修道会のシスター方によって創立され、以来50年有余年、カトリック校として一人ひとりを大切に育つヨーロッパスタンダードな小規模学校経営を進めてきました。自然にも恵まれたその環境の中で、多くの個性豊かな心やさしい子どもたちが育ってきました。

卒園卒業時に「小さなマリア」が育つことを願い、基本的な資質・能力・態度を「6歳のわたし ぼく」「12歳のわたし ぼく」「18歳のわたし」と発達段階に応じた具体的な子どもの姿(各校50項目)に表し教育に勤しんでいます。

人の成長の過程で、最も注目したいのは、0歳～18歳の時期です。人間の人格・人間性の根幹が形成されるこの時期に脳に、「身体的な刺激」「知的な指摘」「霊的な指摘」この三つの刺激を与えることが、子どもの豊かな成長には欠かせません。この「三つの刺激」の中でカトリック校の特色は「霊的な刺激」です。それはこころやさしい祈りのある学校です。神さまの愛に包まれた環境です。人と出会い祈りに始まり祈りに終わる

マリア幼稚園で現場体験する高校生



ゆったりと心なごむ日々が本校にはあります。

海星のルーツは、123年前(明治31年)にコール神父様の要請によって熊本市琵琶崎(島崎)にハンセン病者の介護看護のために5人のシスターがフランスから来日したことに発します。学院の宗教教育の一環として「海星のルーツを探る旅」を大切にしています。小学校6年生の修学旅行、高校生は遠足で毎年熊本・長崎・筑後を訪れます。

英語教育に特色を持つ高校には「こども教育進学」コースがあります。将来幼稚園教諭・保育士・小学校教諭をめざします。心の教育や図書館・理科・図工教育、真のカトリック「モンテッソーリ教育」のよさを、付属する「認定こども園マリア幼稚園」や「海星小学校」での現場体験から学びます。専用教室に一人1台のピアノもあります。高校時代から十分な教師への準備ができます。

人には、それぞれの発達段階やタレントに応じた歩みがあります。自分の確かな歩みを刻むことが、その子にとって真の幸せでしょう。海星の子どもたちは、聖母マリアさまが大好きです。これが、福岡海星の教育です。(小学校校長 山田耕司)

話せない中高生に司教様が寄り添い、コメントを寄せてくださる場面もあり、司教様の温かいお人柄を垣間見ることができました。また講話では、「みことば(聖書)」「御聖体」「排除され孤独の内にある人」の関わりを通して、私たちがイエス様と出逢うことができることのお話をいただき、エマオへの道中でイエス様と再会(再発見)した弟子たちのように、改めて一人ひとりが自らの信仰を振り返る機会を得つつ、励まされたように感じました。



miniFYCC 画面越しの大切な出会いのとき

光丘教会 馬場 洸

きうれしく思います。降誕祭の前には待降節、復活祭の前には四旬節と、大きなよびを迎える前には準備と忍耐の時期があります。コロナ禍の向こうには、きつとたくさんのお出逢いと再会が待っていると信じ、教区青年一同、引き続き様々な企画に取り組んでいきたいと思いますので、今後とも皆さまのお祈りと応援をよろしくお願いいたします。



実るほど頭を垂れる稲穂とピースサイン

### 熊本地震被災地 西原村の実り

10月10日(日)、爽やかな秋空の下、西原村滝地区(熊本県)で稲刈りが行なわれました。いつもたくさんのお米やサツマイモなどをいただいた美野島司牧センターから、スタッフ3人が参加しました。昼食には新米のおにぎり手作りのお菓子が詰まった、自然の恵み豊かなお弁当をいただきました。こころからだに染み入るおいしさでした。その後の稲刈りでは熊本の教会の子どもたちといっしょになりました。初夏に植えた

### カノッサ修道女会 来日70周年記念ミサ



伊万里の聖母修道院

9月18日、カノッサ修道女会大牟田修道院にてヨゼフ・カノッサ修道女会 来日70周年記念ミサ

小さな苗が、季節が巡り豊かに実っている様は、何度体験しても素晴らしいものです。西原村を襲った大きな地震から5年。福岡教区は支援の手を差し伸べました。撒かれた種は大きな実を結び、助け合いの輪を広げています。大名町教会 前田由樹

### 厳律シトー会 喜びの荘厳誓願

9月14日(十字架称賛の祝日)にマリア・グラチア神谷文江修道女が終生盛式誓願を宣立した。この日、アイヤ司教主司式、神言会のブルム神父、リチャード神父、岡崎才藏神父の共同司式による奉獻のミサが捧げられた。家族も愛知県から来院し喜びをともにした。司教は、「奉獻生活は神の喜びであるばかりでなく、教会共同体全体の喜びである。ご自分の愛をますますことごとく捧げられた十字架の上のキリストを仰ぎつつ修道生活の恵みを生きるように」との力強い励ましを言葉で述べた。厳律シトー会はその起源を初代キリスト教徒迫害と殉教の時代まで遡る古い修道形態を維持しており、死から命へと移行する過ぎ越しの神秘が修道生活に色濃く残されている。祈りと労働を調和させ、その生活様式の中で神の言葉を黙想する。戒律は普通の生活の中にある、神に回帰する道を示している。(報告シトー会)

70年間の思い出と更なるミッションへの熱い想いを胸に

アペイヤ司教司式による、カノッサ修道女会来日70周年記念感謝ミサが行われ、世界に配信された。1951年5月12日、4人のカノッサ会修道女が横浜港に到着した。姉妹たちは「全世界に行つてイエスの愛を知らせ、イエスが愛されるように」という創立者、聖マダレナ・カノッサの宣教熱意に燃えていた。戦後間もない頃の日本であった。当時の福岡教区長ドミニコ深堀山右衛門司教は少女たちをキリスト教的に教育する学校を望み、しかも直ちにこの思いで、福岡教区にカノッサ会姉妹たちを招いた。姉妹たちはあらゆる困難を一つひとつ乗り越えていった。苦難、困難に出会う度に、全ての背後に神がおられることを体験し、全てを御手に委ねながら、快活に、主イエスの跡に従って行った。福岡教区及び諸教会関係者の皆様、大牟田市当局、明光学園の教職員、保護者、卒業生など、多くの人々の尽力によってここまで歩んで来ることができた。全てに感謝を申し上げたいと思う。カノッサ会の日本宣教先遣隊の一人、Srアデレ・フルラは日本での宣教奉仕70年を迎え、6月29日に104歳で帰天した。彼女の回想記に次の言葉を記した。「主の偉大なことをなさいませ。心を込めて、マグニフィカトを歌います」。(報告カノッサ修道女会)



☆聖書の物語365 ライオン・ハドソン(著)

不動産全般/売買・賃貸・管理  
なんでもお問い合わせください

**(株)ジャパン・スマイルか**  
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子  
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号  
TEL 092-761-8800  
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313  
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**  
ヨゼフ 森山 新太郎  
福岡市早良区四箇1丁目15番28号  
☎(092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い

**セント・ポール FUKUOKA**

キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD  
福岡市中央区大名 2-7-7 大名町カトリック教会 1F  
平日/AM10時30分~PM3時  
日曜/AM11時~PM2時(定休日 水曜・祝日)  
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601  
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標 ともに歩み 支えあっていく共同体

2021年11月14日(日) 貧しい人のための世界祈願日(年間第33主日)

いつくしみの特別聖年(2015年12月8日~2016年11月20日)の閉年にあたり公布された使徒的書簡『あわれみあるかた、あわれな女』(2016年)で教皇フランシスコは、年間第33主日を「貧しい人のための世界祈願日」とするよう決めました。

ご自分を小さい者や貧しい者と等しい者とみなされたキリストに倣い、わたしたちも、貧しい人、弱い立場にある人に寄り添い、奉仕するよう求められています。不平等や不正義のない世界の実現に向けて、具体的なわざを通して神のいつくしみのあかし人となれるよう、祈り求めていかなければなりません。

2021年11月21日(日) 世界青年の日(王であるキリストの祭日)

1984年、あがないの特別聖年に、教皇ヨハネ・パウロ二世は、大十字架(380cm)を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置し、それを「主イエスの人類への愛のしるし」として青年らに託しました。以来、この十字架は巡礼のシンボルとして諸国を旅しています。国連が定めた国際青年年(1985年)の受難の主日に、青年らはこの十字架とともに教皇のもとに集まりました。そして教皇は、毎年受難の主日を「世界青年の日」として祝うよう定め、以後2~3年に一度WYD(ワールドユースデー)が開かれるようになりました。

2020年に教皇フランシスコは、各方面の要望を踏まえ協議を重ねた結果、次年より世界青年の日を王であるキリストの祭日に変更すると発表しました。祝われる日は変わりますが、この日の中心にあるのはつねに、人類のあがない主イエス・キリストの神秘です。

熊本地震復興支援 西原村復興奇姫伝説米 購入支援のお願い

熊本地震から5年が過ぎ、おかげさまで復興は進みつつありますが、平地部と山間部の格差がだんだん見え始めております。「みんな一緒に、前よりも少し幸せに」が私たちの目標であります。皆さまどうかこれからもご支援くださいますようお願い申し上げます。

今年90歳近くになって「足が全然動かん。もう米は作れん」と言われた老夫婦の田んぼを引き受け、完全無農薬の米を作りました。化学肥料も使わず、除草剤を使う代わりに、妻と一週間、熱中症と闘いながら田んぼに這いつくばって草取りをして作り上げました。

私たちの米は、もともと農業は極力使わない米なのですが、更に安全なお米です。お値段は少々割高ですが、是非一度ご賞味くださいませようご案内申し上げます。皆さまの日々のご支援に、心から感謝いたします。 NPO法人 阿蘇代表 加藤

\*お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み下さい。また右記QRコードから注文書がダウンロード出来ますのでご活用ください。 ※詳細は福岡教区ホームページをご覧ください。 教区HP http://fukuoka.catholic.jp/help/

福岡教区広報室アドレス http://fukuoka.catholic.jp E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

美野島司牧センター 降りにてくださる神様とともに働きましょう。 ホームレスの方に手作りのお昼ごはん 毎週火曜日10時。 ホームレス支援炊出し・夜回り 第1・3金曜日 調理 14時 夜回り 20時から。 路上からアパートに入居した方を訪問 第3土曜日14時

虹の会 12月4日(土) 11時30分~14時(場所)天神・雑魚屋 参加費1500円(昼食代)子どもを亡くした関係のあるかたどなたでも。(問合せ先) ☎090-11662-6395 柴田

案内板 会合と催し

11月のこよみ

ルカ福音書と使徒言行録を味わう 独特の色を使ってルカが記した2巻の書へのご案内

11月28日から典礼暦上では年がかわって「C年」になり、主日の福音朗読では「ルカ」が読まれます。1年間の歩みの中で聖書による養成を経験してみませんか?

ルカは福音と共に続編として使徒言行録も書き記しました。福音書はイエスの物語で、使徒言行録は初代教会の物語です。ルカは共通のキーワード、神学的な枠と特色によって意図的な一貫性を示してくれています。

日時&場所 11月21日(日) 13時30分 大名町教会 11月28日(日) 14時 手取教会 講師 レナト神父(教区養成委員会・聖書部門担当) ※11月21日(大名町教会)の講話はYouTubeでもご視聴できます。詳細は後日、福岡教区ホームページ http://fukuoka.catholic.jp/でお知らせいたします。

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 祈りの実り: イエス様と共に、 イエス様のように生きること

日時: 11月11日(木) 10時~15時 内容: ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7章) 指導者: S. フランコ神父(聖ザベリオ宣教会) 問合わせ先: 真命山諸宗教対話センター 次回: 12月9日(木)

「行って...場所を用意したら、戻ってきて、あなたがたを私のもとに迎える」(ヨハネ14・3) ☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7 E-mail shinmeizan@gmail.com ☆個人またはグループでの懇話会、研修会も歓迎いたします(要予約)

- 【11月】 1日(月) 諸聖人 2日(火) 死者の日 3日(水) 神学院祭(YouTube配信)†J.C. ヴィルヌーブ(2012年) 4日(木) 聖カロロ・ポロメオ司教 常任司教委員会 5日(金) †B. ガラハ(2014年 島崎教会) 6日(土) †K. ウーリック(2013年 泰星学園) 7日(日) 年間第32主日 島崎教会司牧訪問 8日(月) †M. マッコネル(2005年 手取教会) 9日(火) ラテラン教会の献堂 顧問会 14日(日) 年間第33主日 貧しい人のための世界祈願日 糸島教会・堅信式 16日(火) †アントニオ浦口均(2007年 老司教会) 17日(水) †セバスチアノ川添猛(2017年 帯山教会) 19日(金) 神学院感謝祭 20日(土) 山鹿・菊池教会司牧訪問 21日(日) 王であるキリスト 山鹿・菊池教会司牧訪問 聖書週間(~28日まで) 世界青年の日 正義と平和全国集会・ZOOM(~23日) 22日(月) †E. ウィリアム(2016年 古賀教会) 23日(火) †R. マグリン(2008年 聖マリア病院) 26日(金) 宣教司牧方針委員会 健軍教会司牧訪問 †M.C. ハイメ(2003年 トラビスチン) 28日(日) 待降節第1主日 健軍教会司牧訪問 30日(火) 聖アンデレ使徒 †アンジェロ春山勝美(2007年 高宮教会)

- 【12月】 2日(木) 常任司教委員会 3日(金) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭 5日(日) 待降節第2主日 宣教地召命促進の日(献金) ■ゴチックは司教日程

11月14日 貧しい人のための世界祈願日

ふるさと元気子ども食堂

今年の4月に、新型コロナウイルスの影響によって地域社会とのつながりを無くした子どもの居場所づくりを目的として「ふるさと元気子ども食堂」を開設しました。私自身が昨年のコロナによる一斉休校を受けて、友達とのつながりを無くし、自分よりも下の子どもたちはさらにつながりを無くしているのではないかと感じたことや、ボランティア活動に積極的な両親の姿を見て、「自分も何か社会のためにしたい!」という思いから開設に至りました。

会場はカトリック帯山教会の信徒会館を提供していただき、帯山教会の有志の方、地域住民の皆さんのご協力をいただき6月から食堂の運営を始めました。毎月1回第二土曜日の午前10時から午後1時まで行っています。これまでに5回を数え、毎回子ども25人程、ボランティアや地域の方々など20人程が食堂に訪れます。2回目・5回目の子ども食堂の際には熊本マリスト学園高校の生徒がボランティアとして10数人参加してくれました。ご飯を食べるだけでなく、子どもたちと一緒に遊んで「お兄ちゃん」的な存在となり、「楽しい」「来てよかった」と思ってもらえるように心がけています。食堂を始め以降、子ども食堂に来られた人の中には「教会のミサに参加してみたい」と言われた方もいて、教会が地域に開かれた場所になりつつあることを感じました。また、子どものためにと始めた活動が、地域の方々から善意の輪として広がっていることも感じ、これから益々励んでいかなければいけないなと思っています。

運営を通して、大変なこともあります。皆様のご協力のおかげで、とても心強いです。今後は、この活動に学生などが主体的に参加して活動を行っていくことを進めていくとともに、子どもに寄り添う食堂として継続的に活動を行っていきたくと考えています。 ふるさと元気子ども食堂代表 宮津 航一(帯山教会)

【問合せ先】 ☎092-4331-1419 コース・マルセル神父 ■セコの会 セコの会では、手芸などを制作し、バザー等で販売してその収益でフリーピンの貧しい人々を支援しています。当会では作品作りに参加して下さるボランティアを募集しています。(日時) 毎週水曜日10時30分~16時(場所) 福岡市南区塩原4丁目25 高木橋横の日本家屋(問合せ先) ☎090-7927-3636 永田

キリスト教書籍・用品 お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ! http://www.paulus.jp パウルスショップ メディアによる福音宣教のために... サンパウロ福岡宣教センター 10:00~18:00(月~土)/日・祝日休業/地下鉄赤坂駅より徒歩3分\*駐車場完備 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930

社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422 TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115 聖マリアヘルスケアセンター 〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5 TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306 信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さんと一緒に働いてみませんか? URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。 メール: hanahanahimawari2020@gmail.com (24時間いつでも受付) ☎: 080-4735-6971 (9:00~21:00) ※対応できないときもあります。 LINE 右記 QRコード 一ぶろじえくとHana 一ぶろじえくとHanaは、社会福祉・看護師・シスターなどが在籍しています。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。 秘密は厳守します。

福岡教区セクハラ対応窓口 セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談 セクシュアル・ハラスメント相談窓口 電話 080-2694-4182 受付時間 月~金(祝日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00

編集後記

祈る時間が増えました(祈らないと出来ません)。最近、マザーテレサが好んで唱えていたというH・ニューマン枢機卿が作ったと言われる祈りをよく唱えています。その最後は「説教なしで、あなたを人々に知らせることが出来ますように。言葉ではなく、私たちの生き方によって、行いに込められた思いやりの力によって、そして、私たちの心があなたへの愛に溢れているという事実によって。」 教区報に寄稿頂いた方たちの「書く」行いでも、きっとイエス様が伝わることでしよう。「ト、お望みでしたら、今日私のこの手、この足、この心をお使いください。」(W)

熊本地区召命を共に祈る会(日時) 11月15日(月) 10時30分(場所) 手取教会(内容) 司祭・修道者の召命を願う、ミサと話し合い(問合せ先) ☎0969・22・2758 本渡教会 浦川務神父

北九州召命を共に祈る会(日時) 11月18日(木) 14時から(場所) 小倉教会(内容) ミサ(司式・船津亮太神父)(問合せ先) ☎0949・24・9905 藤井